

亀尾島川に内ヶ谷ダムはいらない

かつて、長良川には一つのダムもありませんでした。
 今では、長良川河口堰、阿多岐ダムが建設され稼働しています。
 そして、亀尾島川でも内ヶ谷ダムの建設が進んでいます。

長良川水系・水を守る会



いわこ谷
林道工事の土砂が谷に
落とされている



山が削りながら進む取付け道路工事



地滑りが発生し川が埋められる



土砂で埋まり機能しない魚道
田口砂防ダム



ダム予定地にもシルドがたまっている

穴あきダム
 内ヶ谷ダムは阿多岐ダムと同じく治水が目的のダムで、岐阜県が管理する。このダムは、ゲートを持たないいわゆる穴あきダムで、洪水時に流入量より放水量が少なくなるように放水口が大きさが固定されている。このため、ダムが満水になるとこのため、流量調整が自動的に行われます。

工事による土砂の流失
 内ヶ谷では現在、取り付け道路工事が行われており、既にダムサイト予定地までこの取付け道路が通りました。このため、取付け道路工事では、土砂の流出が激しく、淵は年々埋まっています。土砂の流出は、



ゴルジュ状のダム予定地



予定地直下の道祖神
弘化三年(1846)と刻まれている

ツキマス産卵にも影響しており、一九九二年の産卵観察会においては一卵も産卵しなかった。孵化への影響が懸念され、また左岸の林道付け替え工事において二〇〇二年に地滑りが発生し、この土砂は年達にわたって放置され、増水するたびに削られ下流の淵を埋められた。

渓流環境が失われる
 ダム湖の底に沈む内ヶ谷の渓流は完全に失われ、土砂の堆積により、渓流環境が損なわれる。ダム放水のため、ダム湖から放



ダムに沈む内ヶ谷の流れ



亀尾島川中流の溪相

つた水が放流され、ダム下流では水温の上昇が予想され、アマゴやイワナ、カジカなどが生息しており、魚類の生態系にも影響を与えるでしょう。

魚類の移動が阻害される
 亀尾島川には下流の田口砂防ダムと内ヶ谷の治山ダムの二つの砂防ダムがあり、この数は近年の渓流では少なく、長良川の上流域ではこの長い区間魚類が移動できないのは、亀尾島川だけです。

内ヶ谷ダムは二つの砂防ダムの中間に建設され、生態系を分断してしまえば、この二つのダム建設を中止し、この二つの砂防ダムを撤去できれば、最上流部まで、魚類が遡上できるようになります。



内ヶ谷のアマゴ

内ヶ谷ツアーの案内

- 春と秋の2回内ヶ谷ツアーを予定しています。
- 今年(2008)は5月11日に開催します。
- 詳しくは下記まで連絡ください。
- ブログにもUPしますので御覧ください。

● 連絡先 長良川水系・水を守る会事務局 亀崎敬介
 ● ブログ <http://nagarariver.blog10.fc2.com/>
 ● 〒501-4612
 ● 岐阜県郡上市大和町剣 629-2 剣団地 303
 ● メール amago_u_tigatan@yahoo.co.jp